

雪野山古墳(近江八幡市)

東近江市・近江八幡市及び竜王町にまたがる雪野山(308.8m)の山頂に所在し、未盗掘の状態で発見され4世紀中頃築造の前方後円墳

前方が雪野山で、その頂上に雪野山古墳が所在する



麓にある「雪野山古墳散策路入口」から、いざ、登山！



雪野山山系散策路及び史跡のご案内



平田地区まちづくり協議会

親切な雪野山古墳への行き先表示に従って進む



八幡社古墳群の脇を通過して登って行く

[八幡社古墳群&八幡社南古墳群](#)





前方に石垣が見えて来る

 video



その石垣の上は旧八幡神社本殿跡地のようだ

[video](#)



そこからあと650m登って行かなければならない



途中、東屋があった

 video



近くに展望台があるようだ！



その展望台からの眺め/残念ながら、もやっていて良く見えないが晴れている時はさぞかし絶景なのだろう

 video



さて、ここからあと360m登って行く



途中、こんな巨岩が横たわっている脇を通り抜けて登って行く



前方が雪野山の頂上のようなだ/その頂上が雪野山古墳の後円部で、手前が前方部と思われる/括れ部の感じも見てとれる！

 video



括れ部の辺りで後円部方向を見たところ

 video



近くにはこんな割れ石が散乱していた



ここが雪野山の頂上で、雪野山古墳の後円部墳頂

 video



雪野山の頂上を示す標柱が立っていた

 video



雪野山の案内図もあった

雪野山案内図



後田部の左下に説明板が立っていた

 video



案内板の辺りから前方部方向を見たところ

 video



史跡 雪野山古墳 (平成26年3月18日指定)

雪野山(標高308.82m)は、湖東平野に特徴的な地形である孤立山塊の一つで、古墳時代後期の円墳や前方後円墳等の古墳が、200基以上築かれていることが知られます。

平成元年(1989)に、八日市市教育委員会の「雪野山史跡の森整備」計画による工事に先立つ調査で、古墳の竪穴式石室が発見されたため、雪野山古墳発掘調査団(団長:大阪大学 都出比呂志教授)が結成され、以後4次にわたる発掘・測量調査と、7年に及ぶ資料整理調査により、古墳の全体像が明らかとなりました。雪野山古墳は、古墳時代前期第2四半期、暦年代で西暦4世紀前半までに造られたと考えられています。

古墳の形態

- ・ 山頂から北東に延びる尾根を利用した全長70mの前方後円墳(推定)
- ・ 後円部: 墳丘の途中に一段の平坦面をもつ二段築成 径40m、高さ4.5m以上
- ・ 前方部: 長さ30m、高さ2.5m以上
- ・ 墳丘の盛土表面に葺き石(湖東流紋岩)、一部に自然の岩盤を利用
- ・ 後円部に石垣や前方部に竪堀が見られ、16世紀頃に後藤氏の詰城に改変されたと推定

埋葬施設

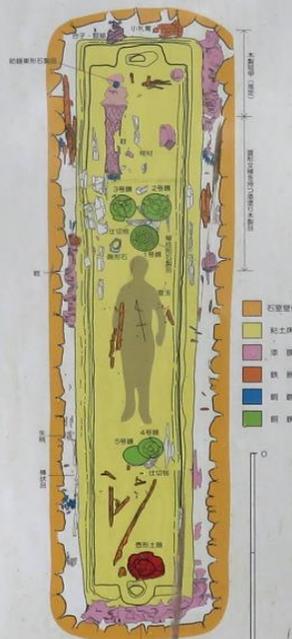
- ・ 竪穴式石室(長さ6.1m、北端幅1.55m、南端幅1.35m、高さ1.6m)
- ・ 後円部のほぼ中央を長方形の2段に掘り込み(上端長最大値南北10.6m、東西7.0m)、その下段に構築(石材は全て湖東流紋岩、赤色顔料が付着)
- ・ 木棺(長さおよそ5.6m、樹種:コウヤマキ)
- ・ 石室の床面に粘土床を設置し、痕跡により木棺の両端に縄掛突起を有する舟形木棺と推定
- ・ 仕切り板によって3区画に分けられ、被葬者は中央部に、北頭位に埋葬されたと考えられます



墳丘形態復元図



石室内部の状況(北から)



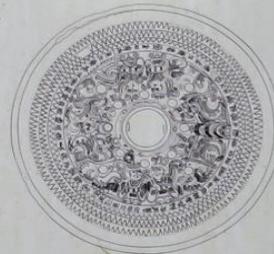
遺物出土状況

説明板

副葬品

- 銅 鏡: 内行花文鏡(1号鏡: 径約24.0cm、1291g)
 龜(た) 龍鏡(2号鏡: 径約26.5cm、1432g)
 三角縁波文帯盤龍鏡(3号鏡: 径約25.2cm、1146g)
 三角縁唐草文帯四神四獣鏡(4号鏡: 径約24.2cm、1337g)
 三角縁采出銘四神四獣鏡(5号鏡: 径約24.2cm、1617g)

- 石製品: 鍔形石 琴柱形石製品 管玉 紡錘車形石製品
 農工漁具: 鉤(やりがんな) 鑿 鎌 刀子 ヤス
 武器武具: 靱 鉄刀・槍・剣 銅鏃 鉄鏃 小札革綴帯
 …他にも棺の内外から、土器(壺形土器)・ガラス玉・漆塗製品(直弧文のある木製品・合子・竪櫛)などが多数出土しました…



三角縁采出銘四神四獣鏡(5号鏡)
下段は実測図(原寸大)



棺内出土の靱



小札革綴帯出土状況



小札革綴帯復元

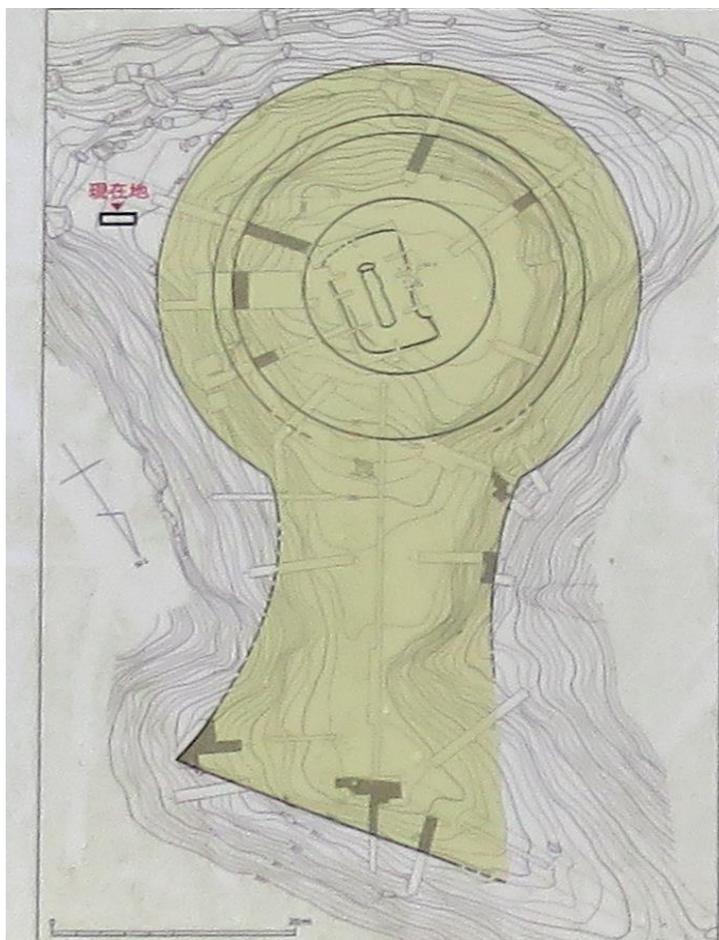
副葬品は盗掘をまぬがれ、当時の状態で出土しました。一括資料として考古学的な意義が大きく、大変貴重です。三角縁神獣鏡を含む銅鏡群は、中央政権との結びつきを示すといわれ、さらに武器武具を多数副葬した、武人的な被葬者像を想わせます。

また、靱(ゆぎ: 矢筒)などの多彩な漆製品が良好な状態で出土したこと、小札革綴帯がほぼ完全な形で見つかり、その形態や技術に関する多くの成果をもたらしたことで、平成13年に重要文化財(218点 附18点)に指定されています。

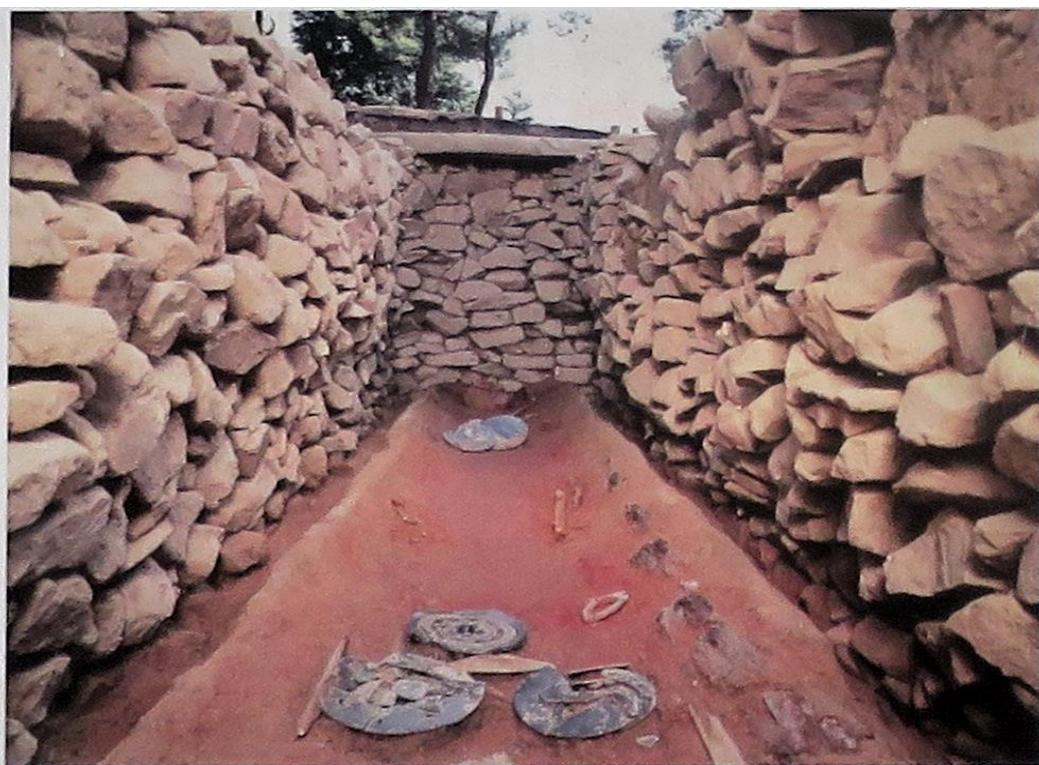


東近江市教育委員会 文化財課
 東近江市埋蔵文化財センター
 TEL: 0748-42-5011
 IP: 0505-801-5011

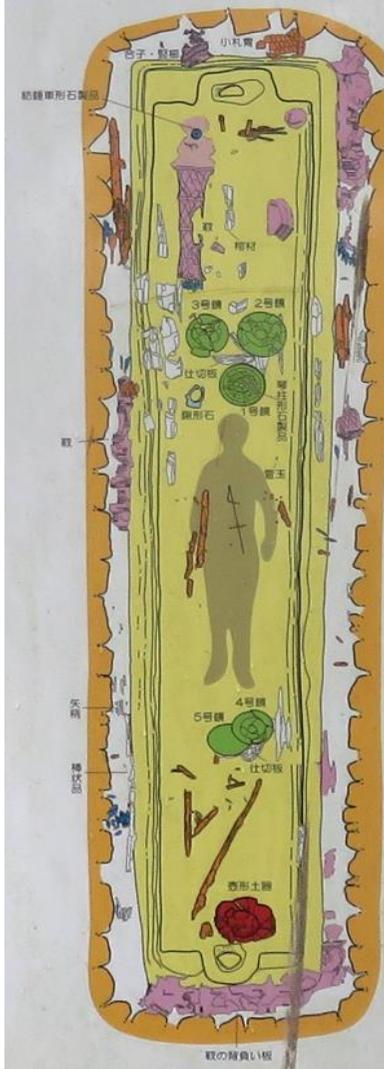




墳丘形態復元図

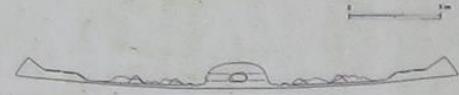


石室内部の状況（北から）



遺物出土状態

- 石室壁体
- 粘土床
- 漆 膜
- 鉄 器
- 銅 鏡
- 銅 鏡



三角縁葉出銘四神四獣鏡 (5号鏡)
下段は実測図 (原寸大)

後田部の墳丘の付近にはこんな巨石が転がっていた



さて、ここは東近江市埋蔵文化財センター



重要文化財となっている雪野山古墳出土の三角縁神獸鏡他(レプリカ)が展示されていた



これは雪野山古墳の竪穴式石室復元模型

[video](#)



たて あな しき

豎穴式石室復原模型

滋賀県埋文センターが製作した模型です。みずらを結った男性が葬られています。これは副葬品に武器が多いことからの推定です。木棺の内部には頭先と足元に間仕切りがされ、ここに鏡が2面ずつ、光る面を内側(死者側)にして置かれていたと考えられます。内行花文鏡ないこうかもんきょうだけが文様を上にして置かれていたようです。

石室内部は全面にベンガラ(酸化鉄)が塗られており、木棺内部にも塗られていました。これは防腐のためであると共に魔よけの意味、あるいは死者の魂を石室内に封じ込めるといった目的で塗られたようです。

側壁の石を半分ほど積み上げた段階で木棺を安置し、お葬式をした後にさらに側壁を築いて天井石をかぶせたと思われま

雪野山からは「湖東流紋岩」が産出されると記されている

雪野山古墳

雪野山（竜王山）には、5～7世紀の円墳・前方後円墳などが200基以上築かれており、八日市市教育委員会は「雪野山史跡の森整備工事」に先立って山頂部の調査を実施しました。

平成元年に堅穴式石室を検出し、石室内部遺構の保存状況が良好なことから、出土した副葬品が三角縁神獸鏡を含む3面の銅鏡であることから遺跡の重要性が認識され、大阪大学都出比呂志教授を団長とする雪野山古墳発掘調査団の手によって発掘されました。

さらに2面の鏡が検出されたほか、石製品・漆塗製品・土器などが原位置を保った状態で出土し、棺内の遺物保存状況はきわめて良好であることが明らかになりました。

古墳の形態

雪野山古墳は、全長70m（後円部径40m、高さ4.5m以上、前方部長30m、高さ2.5m以上）の前方後円墳です。

前方部の先端がバチ形に開く古いタイプで、後円部は2段に築成され、墳丘の盛り土表面には葺石が施されています。また、墳丘面からは土器片が出土しましたが、埴輪は見つかっていません。

雪野山古墳は古墳時代前期の中頃、実年代では西暦4世紀中葉までに築造されたと考えられます。

雪野山古墳堅穴式石室の構造

後円部のほぼ中央に、石室を築くための墓壇（南北約10.6m、東西6.7mの2段掘り）が掘られ、その下段に壁面の石を積み上げ、最後に天井石で蓋をして堅穴式石室を構築しています。

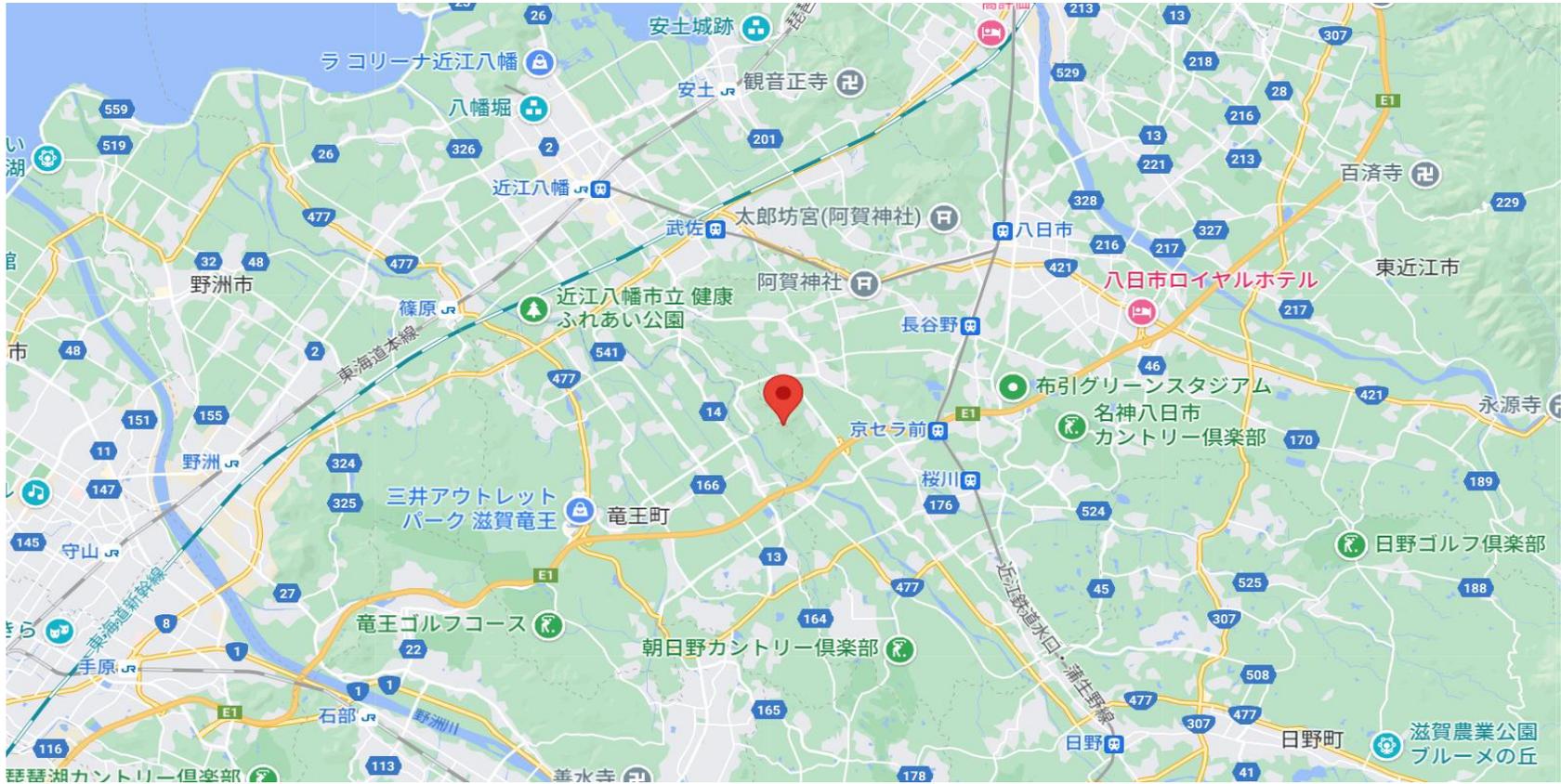
石室の床面には細かな砂を敷き、粘土床（木棺をのせる台）の上に長さ5.2mの長大な舟形木棺が安置されたようです。

石室の石は全て当山からとれる湖東流紋岩を使用しており、石室の大きさは、長さ6.1m、幅1.5m～1.35m、高さは1.6mです。

主要な出土遺物

- ・ 船載の三角縁神獸鏡 3面
- ・ 日本製の夕龍鏡・内行花文鏡
- ・ 鍬形石や琴柱形石製品などの碧玉製品
- ・ 小札革綴冑や鞆などの武具
- ・ 武器類（銅鏃、鉄鏃、鉄刀、剣・槍など）
- ・ 鉄製農具類（鎌、ヤリガンナなど）及び壺形土器など多数の遺物が出土している。

東近江市教育委員会



参考ホームページ

<https://kofun.info/kofun/2247>

<https://e-omi-muse.com/maibun/yukinoyama/index.html>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%AA%E9%87%8E%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3>